

昭和40年12月1日

NORニュース

社団法人 日本外洋帆走協会

勲二等瑞宝章に叙せらる

十一月三日文化の日 会長関谷健哉先生は、多年の船員教育に尽力された功績により、勲二等瑞宝章の叙勲を受けました。会員一同心からお祝い申し上げます。 12月4日関東支部懇親会の席上協会より記念品を贈呈しました。

油壺導灯小網代灯標完成

油壺記念碑基金として会員候補生の皆様よりの醸出金により、こゝに灯標の完成を見ました。設計建設に当り三管本部灯台部の皆様のご協力を深謝します。

1、小網代崎灯柱

- (イ) 灯 高(地上高) 7 m
- (ロ) 灯 質 白色不動
- (ハ) 光 力 1,000 cd
- (ニ) 位 置 N. 35°09'33"
E. 139°36'51"

2、諸磯湾導灯(2灯1線上、真方位118°30')

2～1 前 灯

- (イ) 灯高(地上高) 4 m
- (ロ) 灯質 緑色不動
- (ハ) 光力 400 cd
- (ニ) 位置 N. 35°09'08"
E. 139°37'03"

2～2 後 灯

- (イ) 灯高(地上高) 6 m
- (ロ) 灯質 紅色不動
- (ハ) 光力 250 cd
- (ニ) 位置 N. 35°09'07.5"
E. 139°37'04"

小網代湾内に灯標を設置した

小網代湾内の最奥部（造船所附近）に三角の紅灯を設置した。小網代崎灯標の完成と相まつて、夜間小網代湾内へ進入が容易になつた。この灯標は小網代フリードの資金により建設されたものです。位置は正確に出ていません。

灯標の概位



無線電話について電波監理局と折衝

大島レース以来電波割当について、則武常務、田山理事が郵政省電波監理局と交渉して来ましたが、去る11月13日飯島専務、則武常務、横山理事、麻里主事帯同して赤塚航空海上課長他4氏と会同を持ち、27MC(DSB)1W、27M(SSB)5W~10W、又はチタニ世号で話題になつた2MC帯について懇談した。

電波割当については明るい見通しであるが、割当られた後の基地局開設については経常的な費用を必要とするので会員全員と慎重に協議したい。詳細は12月4日懇親会席上にて説明します。

猶11月17日日本ヨット協会に於て、小沢副会長殿、山本理事長殿と会同を持ち、江の島に基地局を持つ158MCの無線電話の使用について、協議し、NORCの会員でクルージング等に出られる方は子局を借用すると便利と思います。

細部は本部へ問合せ下さい。

SEA CROWN(芦田等氏)の美拳

旧聞になりますが去る9月26日一通の封書が本部に届きました。その全文を掲載します。

拝啓 騒がしかつた夏も過ぎ海はもとの静かさをとりもどそうとしています。貴N.O.R.C.の活潑な御活躍を私も陰ながら喜んでおります。

私は数年前からデインギーで、江の島周辺の海を楽しんでいる者です。天候については私なりに注意をして今までは危い目にも逢はずに過して参りました。しかし今日は、天気図も確かめずにポカポカした陽気にさ

そはれて江の島の南約6軒位の所で引釣をしておりました。正午過ぎ北方から突風に襲はれ釣糸をとり込むひまもなく必死に江の島へ帰りはじめましたが、その時の心細さは例えようもありませんでした。

N.O.R.Cのクラブ旗をはためかせたSEA CROWNがそばえ来て下さったのは、此の様な状態の時でした。百万の援軍を得たような気で江の島までのエスコートを御願いし、なおしばらく頑張りましたが波とシーートの重みに耐えかね遂にあきらめて曳航していただき私はSEA CROWNに移りました。大船に乗るとは正に此の時の私の気持ちを現はしたもので、クルーザーの頼もしさをこれ程感じたことはありませんでした(とは云うもののクルーザーに乗ったのは今回が初めてなのですが)。

今、今日の出来事を反省しながら此の手紙を書いています。大変な迷惑をおかけしたSEA CROWNの皆様申し訳なく思うと同時に感謝の気持ち一杯です。

改めて御礼を申し上げたいのですが御名前を教えて下さいませんでしたので貴N.O.R.CよりSEA CROWNの皆様に私が心から御礼を申していたと御伝え下されば大変嬉しいのですが、

私もこれらら油断することなく恐はがることなく海を楽しみたいと思っております。

SEA CROWNをはじめ貴N.O.R.Cの御発展を期待しつつ筆をおきます。

右御礼まで。

昭和40年9月26日

鎌倉市長谷230

笹原経夫

(12) 50

日本オーシャンレーシングクラブ 殿

早速則武常務理事は三管本部へ報告、表彰方を上申しました。

第2回クルーザ教室報告

既報第2回クルーザ教室は20名の定員を満員にて開講、10/7座学、
10/10、10/17の2回乗艇実習を行つた。実習生はNOROクルー
ザに見習乗組を希望していますから会員のご協力をお願いします。
受講生氏名、住所は本部にありますからお問合せ下さい。

第2回クルーザ教室収支計算書

(収 入)		(支 出)	
摘 要	金 額	摘 要	金 額
受講者会費 (19名分)	95,000.00	講 習 費	9,800.00
		(内 訳)	
		教室借料 2800	
		講 師)会食費 7000	
		受講者	
		実 習 費	85,000.00
		(内 訳)	
		使用艇借料 76000	
		(4隻)	
		船艇管理謝金 3000	
		臨時艇長謝金 5000	
		(3名)	
		雑 費 1,000	
合 計	95,000.00	合 計	94,800.00
差引残額		200.00	

「66」海のカレンダー」の購入斡旋について

財団法人平和の海協会発行、海上保安庁水路部監修

定価 ￥350 を特価 ￥300 (〒実費)です。

実物見本は関東支部と本部にあります。至急お申し込み下さい。

新 入 会 員

5591	沖 尚武	東京都足立区神明町 43	千葉大学工学部印刷工学科	油つぼ	くろしを
5592	中川 靖郎	〃千代田区九段 3の2 (262)4714	千葉大学学生	〃	〃
5593	笠井 明人	東京都渋谷区代々木上原 町1-14-15(467)3960	滝之屋商事部 (251)-6618	横 浜	のぶちゃん
5594	三村長二郎	横浜市西区浅間町3-179 (44)2378	鹿島建設技術研究所 調布(82)-1111	小網代	

住 所、電 話 番 号 変 更

4433	鈴 木 礼 三	渋谷区神宮前 2の2の39 外苑ハウス201 (403)1038
2265	吉 田 義 明	(0423)62-5011 (勤務先)
2339	名 当 英 臣	(772)4627 自宅
3372	星 野 利 一	(752)0279 自宅
1204	河 原 昭 三	(045)20-4844 中山呼出
5523	金 子 武 男	墨田区京島 3丁目 58-14
3381	近 藤 禎 之	文京区千駄木 3丁目1の9 講談社々宅16号
5560	三 浦 三 生	山形市十日町 4-3-49 NHK 山形放送局
5109	犬 伏 一 郎	犬伏商事KK 千代田区丸の内 3の4 第三東京ビル 930号室 (211)7071
4472	岸 靖 人	名古屋市千種区丸山町 3-60 水野久直方 (751)9993

常務理事	則 武 勝 馬	(045)88-8980 自宅番号変更
副 会 長	秋 田 博 正	正興産業KK東京営業所 中央区西八丁堀3の20 (永井ビル)(551)0753 5043
4012	渡 辺 修 治	(216) 4031 4035 (勤務先)丸ビル306号室
3374	野 村 清	鎌倉市笛田大久保476
2316	前 田 勉	横浜市金沢区州崎町167 寺田武司方
4504	前 田 洋 介	世田谷区下馬町1丁目100 静和荘：大口製本印刷(971) 3198

会 員 種 別 変 更

1. 候補生より普通会員へ

4488 浅 野 英 武 (40.10.20) 神 洲

1. 普通会員より特別会員へ

3402 中 島 伸 之 (40.10.1) くろしお

1. 特別会員より普通会員へ

7042 工 藤 典 夫 (40.10.1) くろしお

脱 会

2336 木 村 安 夫 (40.9.27) AOLELE II

3386 塩 谷 嘉 男 (40.9.27) のぶちゃん

初 島 レース 報 告 書

初島レース委員長 石原慎太郎

9月24日(金)台風26号(中心気圧990mb)が南大東島のNE
270Kの海上にあつてNNEに進みつつあり、小型台風ではあるが本
土に接近すれば海上も相当に風波が強まる見込。明日夕方頃より次第に
風雨波浪共に強くなりそう・・・以上の如き予想される。

1100 第三管区海上保安本部よりレースについて延期又は中止する様勧告を受ける。

1500 帆走委員長と飯島専務理事の話し合いによりレースを一週間後に延期する旨。山本委員より連絡あり。直に各レース参加艇に伝達する。

10月1日(金)今年最大と云われる台風28号(中心気圧925mb)が硫黄島のE、約300Kの海上にあつて毎時25Kの速度でNNEに進みつゝあり。

10月2日(土)台風28号は鳥島の南東海上をN又はNEに進みつゝあり。従つて本土接近は避られるもこの分で行くと2日夜半には房総沖を通過するが台風が大きい為、風雨波浪共に強くなる見込。

直に横浜海上保安部へ電話連絡する。

0930 八丈島最大風速30米 大島附近最大風速20米
うねり5 波浪6

1030 LOTUS 艇長 関根久氏よりレースの如何。同合せあるも現状では即決出来ず今夕の艇長会議迄待つのみ

1100 第三管区海上保安本部小原係長より台風の直接影響はないが午後より次第に風雨共に強まりつゝあるので今後の状況によつては、レースについて充分に且つ慎重される様要望があつた。

1200 横浜海上保安部尾高係長と連絡

相模湾も次第に風雨波浪共強く1130 八丈、三宅、式根等に強風波浪注意報が発令された。又、式根附近に浮遊せるドラム罐を確認のため派遣した巡視も確認困難の為、帰港する。伊豆稲取附近沖の最大風速はNE25米、波浪6、うねり5との事

1430 帆走委員会本部(油壺ヨッテル)にレースについての問合せある為、山本委員が直に油壺ヨッテルへ詰める。

1700 出艇申告受付を中止

1800 各レース艇々長逐次集合出席をとる。AOLELE.

JOVIALFIVE II等は書類を以てレース不参加の連絡あり。

1830 各艇長協議の結果レース中止を決定、帆走委員長これを宣言する。

1965年初島(時計廻)レース会計報告

入 金		1965.10.8
申 込 料	22隻	22,000
遅 延 料		2,000
		計 24,000
支 出		
艇長会議借室料		500
臨時電話架設料		3,640
信 号 紅 炎		4,200
領 収 書 用 紙		35
印 刷 費 (帆走指示書及略式チャート)		2,500
通 信 費		60
委 員 交 通 費		3,450
委 員 食 費		4,593
		計 18,978
(22隻に返金します)		差引残高 ￥ 5,022.00

1965 神子元島 レース 報告

神子元島レース委員長 大 儀 見 薫

本年度公式レースの最後を飾る神子元島レースは出場艇が 8、完走 5、棄権 3 となり、結果は別表の如くである。

〔 レース 経 過 〕

初島レースが二度の台風のため流れてしまった後だったため、気象についてはレース前から気掛りではあったが、幸い台風 30 号もスタート 3 日前位には本洲東海上を北上して過ぎ去り、その後に張り出して来た高気圧が本洲北部を東へ移動している状況でレースのスタートをむかえた。

スタートの 10 月 22 日 22:00 時には風は N~NNE 7~8 M 位、見通しとしてはこの北寄りの風が恐らくレース中吹くのではないかと思われた。

追手のスタートにトップで飛び出したのは毎レース健斗の「くろしお」であり、そのすぐ後に「TILDE」、「AOLELE II」等がつづき、少し後れて他の艇が一団となつて出て行つた。「のぶちゃん」だけはキャリヤーの貫録とでも云えるのか、10 分近く後れて航海灯を見せながらスタートラインに近づき、スタートして行つた。「腹がへつては戦はできぬ」とあつては、腹ごしらえに手間取つて後れたとのことである。

神子元までの下りのコースはほとんど真追手になり、次第に強まる北東の風の中を各艇とも、ほぼ直線コースに近いコースを引いて走り、スタート 2 時間後には早くも伊豆東岸の灯りを確認できる快ペースで飛ばした。

この中で「飛車角」だけは真追手の帆走をきらつて、交互にジャイブしながら南下し、このため方向の錯覚を起し、風早崎の灯台 (GP.FI.

30 sec) を門脇崎 (FI. 10 sec) と誤認して大島の西側寄りのコース

を取つてしまい、誤りに気が附いた時は強い北東流のため東へ上り切ることが出来ず、波浮に入港して棄権することになった。

神子元廻航はトップが「シレナ」で、夜明け前5時15分頃には完全に廻り切つて神子元の南を通過している。スタート後7時間、約50哩を平均7ノットという快ペースであり、他の艇も7時間までには、途中棄権して伊東に入港した「神洲」以外の艇は神子元を廻つてしまつてゐた。

風は以前としてNE。しかも23日未明から早朝にかけては一時20m近く吹くという状況となり、強風下の上りの帰路が結局このレースの勝負所となつた。

このきびしい上りの帰路で「のぶちゃん」が棄権し、稲取湾に入港し、「AOLELE II」が一時避行のため下田に入港して、一時間後に出直してレースを続行することになったが、23日午後からは風が次第に弱まり、24日朝には無風に近い状況が続き、昼近くなつてやつと南が吹いてくるというコンディションのため、「AOLELE II」はトップ艇に16時間以上後れてフィニッシュすることとなつた。

上りの帰路は、神子元を1時間か1時間半位の僅かな開きで廻つた「シレナ」「さがみ」「くろしお」「TILDE」の4艇の争いとなつたが、大きいタックで沖に出して大島寄りのコースを引いた「TILDE」が強い北東流をつかんで23日午後6時過ぎには早くも城ヶ島沖に到達するという早いペースで二番手の「くろしお」に2時間の差をつけて、ダントツでフィニッシュして優勝した。

「くろしお」、「さがみ」、「シレナ」はその順で8分、14分の僅差でかたまつてフィニッシュしたが、結局早く伊豆東岸を離れた艇程有利だつたようで、連日の北寄りの風にもかかわらず往路「飛車角」を飛ばし、帰路「TILDE」を助けたと見られる北東流はかなり強く、これ

の影響を早く受けた艇ほど先に出ることができたのではないかと思はれる。とはいえ、強風の上りでの「TILDE」の健斗は全く見事であつた。

〔レースの特長、問題点等〕

1.フィニッシュライン例年の城ヶ島、居島の灯台を延長した線を今回は、返子湾口、鑑摺湾防波堤先端のポールと大崎の有料道路トンネル入口を結ぶ線にしたこと。これは居島の灯台が根こそぎ台風によられてしまい、夜間フィニッシュが危険なため、トンネル入口はこれも夜間の確認の便利のためである。

2.フィニッシュ後その日の中に航路図の提出を要求したこと。これは鑑摺湾フィニッシュという条件も幸いしたのだが、航海の安全保証という観点から、全体としてレース艇の航海術のレベルアップをうながすために最近のレースでは毎回行なわれていることだが、レース後日置くと、提出が難かしくなるため当日提出を義務づけたのだが、棄権艇も含くめ、今回は出場艇全部の航路図が集まつた。しかし、内容について云えば、極めて不十分なものが多く、風早崎を誤認した「飛車角」を初めほとんどの艇が盲目航海をしており、今後ともこの点については各艇長に注意し、全体として大きく改善する必要がある。

3.レース中に入港した場合、棄権、一時避行のためのいかんを問わず、電話、電報による確実な連絡がレース規則により義務づけられていることが無視され、「AOLELE II」の下田入港について正確な連絡が全く無く、一艇だけ16時間以上も後れる中で、保安庁、新聞社等も騒ぎ出す始末で、レース委員としては全く往生させられたこと。これは全く弁解の余地のないことであるが、歴戦の「AOLELE II」がこのような誤ちをおかしたことはレース規則の徹底のための努力がなお必要だとい

うことを示している。

以上がレースの問題点と思われたポイントだが、いつもながら、海上保安庁各位の御協力感謝したい。

1965 神子元島レース成績表

着順	SAILNO	BOAT	CLASS	TCF	E.T.	C.T.	順位	
1	367	TILDE	A	0640	25:19:19	16:12:22	1	A-1
2	135	KUROSHIO	A	0619	27:23:27	16:57:18	3	A-3
3	164	SAGAMI-II	A	0633	27:31:24	17:25:20	4	A-4
4	179	SIRENA	A	0605	27:45:37	16:47:42	2	A-2
5	361	AOLELE-II	A	0603	41:28:11	25:00:23	5	A-5
DNF	302	NOBUCHAN	A	0604	RET INATORI (10/23 13:00)			
DNF	316	SHINSHU	A	0633	RET ITO (10/23 04:00)			
DNF	346	HISHAKAKU	B	0596	RET HABU (10/23 06:00)			

神子元島レース収支計算書

1965:10:24

収入の部	参加申込料	¥ 12,000	12艇
	会員参加料	¥ 14,000	28名
	非会員参加料	¥ 7,000	7名
	合計	¥ 33,000	

支出の部	宿泊費食費	15,138
	旅費	3,500
	印刷費	1,400
	諸雑費	3,000
	合計	23,038
	差引残額	9,962
	賞盃代金を含まず	

小網代カッブレース報告書

小網代カッブレース委員長 今井金次

1965年掉尾を飾る第3回小網代カッブレースは11月20、21両日予定通り小網代～大島～小網代のコースで举行された。レースは参加艇13艇のうち7艇棄権。完走6艇は約2時間余りのあいだに全艇フィニッシュと云う熱戦で終始したが。参加艇の状況報告に依る経過は次の通りである。

20日10.00スタート直后2艇団となつた参加艇は何れも風早崎東方海面を目指し。タツクの連続で各艇互に交叉を繰返して20日の日没前後には大島の北東沖に到達した。

其の後各艇は暗黒の大島東海岸を次第に吹き募る南西風と三原山の吹き下ろしを御して龍王崎を目指したが此の頃の海面は吹き続いた南西風の為波長が大きく又表面流が強くなつて各艇とも切り上りに大分苦勞した様である。

17.00～19.00の間。千島沖1,002ミリバールの低気圧から南西に本州南岸沿いに延びる弱い寒冷前線が秒速20米の風と小雨を伴つてレース海面を通過した。然しオホーツク海にある990ミリバールの低気圧から南

西に朝鮮に延びる前線があり南からの吹き込みがある為風向に大きな変化なくレース海面には依然南西が強く吹き続いた。

19.00 龍王崎を目前にして、さがみⅡ、飛車角、サーモンⅡはトラブルの為棄権を決定し、オリンパスⅡも又艇員の疲労限界に達したのを知つて棄権して艀を北に向けた。

22.00 前後龍王崎をかわしたシレナ、モサⅢかまくら、どんがめⅦチルデくろしおの6艇は龍王崎吹き出しの西風と強い表面流更に加えて下げ潮に悩まされ乍らもタツクの繰返しで一寸きさみの詰めを行なつた。そして、ついにシレナが龍王崎180°の線を越したのは21.30頃であつたと想われる。

23.00 龍王崎90°の位置にあつたジューンブライドは艇員疲労の為棄権、反転して葉山にコースを採つた伊豆東海岸と大島の間吹き抜けをコースとする帰路は夜間強風の為スピワークを行つた艇はなく追手にのつて各艇一路小網代を目指した。

フィニッシュは21日05.46シレナの完全優勝をトップに約2時間余りの間に完走艇全艇が入る白熱戦で無事レースを終了した。

今回のレース経過中特に暗夜の龍王崎近辺で参加艇の安全を確認し警戒された巡視船すみだの御厚意に感謝して経過の大要を終り以下にレース本部記録抜粋する。

小網代カツブレース本部記録抜粋

11月20日 08.00 レース出艇申告書受付(於油壺)出走艇13艇
08.45 第三管区海上保安本部より「巡視船すみだは本日大島近海及び新島方面警戒の為下田を出航する」との通報を受ける。

- 10.00 スタート 南西4～5米の風、晴、うねり
 スタートライン（網代崎先端と亀城礁灯柱を結ぶ
 線上でマークボート、ケロニヤの東側）にあるケ
 ロニヤから判定した順位はくろしお、コンテツサ
 II、潮風III、かまくら、チルデ、飛車角、シレナ、
 モサIII、サーモンII、さがみII、オリンパスII、
 どんがめVII、ジューンブライド。
 スタート直后チルデ、シレナ、くろしおの三艇が
 コースを南にとり他艇は一団となつて西に向う。
- 10.14 レース経過について横須賀海上保安部と連絡。「
 巡視船すみだはレース海面をパトロールしてレー
 ス艇の安全を確認した上で新島方面に向う予定と
 の連絡を受ける。
- 11.45 潮風III舵不調の為棄権して油壺入港の電話連絡あ
 り。
- 15.30 城ヶ島より東海大学細川委員他1名帰る
 報告事項ー14.00 現在風早崎方向に大型ヨール
 1艇スループ大、小、各1艇のセールを望見する
 との事。各艇南西の上に苦労している様子が偲ば
 れる。
- 18.45 油壺より入電、コンテツサII 16.00 棄権決定
 18.00 油壺入港
- 20.10 下田海上保安部と連絡巡視船すみだの状況聴取。
 「夜間中すみだがレース海面の異常の有無を監視
 をして居る」
 「レース艇には現在異常はない」との事

23.40 さがみⅡ 飯島艇長、飛車角周東艇長名和幸夫氏、サーモンⅡ 飯島
征四郎氏棄権して小網代に入港した旨報告の為本部に来る。

さがみⅡ ストームデブ、トラブルの為 19.00 棄権決定

飛車角 電気系統のトラブルに依り航海灯消灯のおそれある為

19.00 棄権決定

サーモンⅡ ジブシート、トラブルの為 19.00 棄権決定

大島東側で風は南西 17.00~19.00 間寒冷前線通過の際で秒
速20米を越したと思われる猶三原山の吹き下し強し、

レース続行中の艇は24.00 には龍王を廻るであろうとの情報を
受ける。

21日

01.00 オリンパスⅡ 落合艇長から棄権の電話連絡を受ける。

艇員の疲労激しく19.10 龍王崎東方で棄権決定21.50 三崎入
港。

01.55 レース本部湾口分室のワッチ開始、小網代湾口フィニッシュに備
える。

05.46'30" 179 シレナ ファーストフォームでフィニッシュ

06.06'10" モサⅢ フィニッシュ

06.50'20" かまくら フィニッシュ

07.22.00" どんがめⅦ フィニッシュ

07.15 ジューンブライド松延艇長棄権報告の為本部に来る。

風波強く艇員の疲労激しい為23.00 龍王崎90° に於て棄権決
定04.30 油壺入港の報告を受ける。

07.51'20" チルデフィニッシュ

08.02'00" くろしを フィニッシュ

08.10 海上保安部にレースの終了を報告する。

第 3 回 小 網 代 カ ツ プ レ ス 成 績 表

No	艇名	艇 長	TCF	着順	到着時	所要時間	修正時間	順位	備 考
179	シレナ	武市 俊	.605	1	05.46'30"	19.46'30"	11.57'50"	1	1位 ^{ブームスト}
366	モサⅢ	吉田 義明	.600	2	06.06'10"	20.06'10"	12.03'42"	2	2位
319	かまくら	中戸 将治	.603	3	06.50'20"	25.50'20"	12.33'57"	3	3位
315	どんかめⅦ	渡辺 修治	.598	4	07.22'00"	21.22'00"	12.46'38"	4	
367	チルデ	J. J. ANSSEN	.640	5	07.51'20"	21.51'20"	13.59'15"	6	
135	くろしお	金子 武男	.619	6	08.02'00"	22.02'00"	13.38'19"	5	
358	しをかぜ	福吉 信雄	.679	DNF				20日	10.30 棄権
188	コンテンサⅡ	石原慎太郎	.677	DNF				20日	16.00 棄権
164	さがみⅡ	飯島 元次	.633	DNF				20日	19.00 棄権
199	サーモンⅡ	富永 弘	.655	DNF				20日	19.00 棄権
346	飛車角	周東 英卿	.596	DNF				20日	19.10 棄権
327	オリンパスⅡ	落合 公平	.584	DNF				20日	19.10 棄権
334	ジューン ブライド	松延 猛	.584	DNF				20日	23.00 棄権

フエニツクス号広島より油壺へ廻航

フエニツクス号（レイノールズ博士）は12月10日広島を出航。油壺へ廻航12月24日頃到着の予定です。博士は東京に2～3年滞在の予定でNORCに入会いたします。廻航には細川保弘会員（東海大学）他二名が広島より乗組ます。

小網代カッブレース会計報告

NORC小網代フリースト

収 入

レース申込料及出艇料	49,000
収 入 計	49,000

支 出

チ ャ ー ト 1 枚	400
フ イ ル ム	180
電 地	1,590
謝 礼 (油壺ボートサービス、駿河銀行別荘)	3,850
ガ ソ リ ン	1,500
丸 八 旅 館	20,740
電 話 (架設料、丸八旅館使用料)	3,640
レース委員交通費、19日夜食費(12人)	9,600
参 加 賞 (スポーツタオル)	14,720
賞 盃 銀製カップ3ヶ	27,000
# フラストホーム賞	2,070
支 出 計	85,290
差引不足額	36,290

(註 特設電話通話料は不明の為計上しません)

NORC 関東支部懇親会報告

1 2月4日1500より船舶クラブに於て開催参加者62名にて盛会であつた。

開 会 の 辞

会 長 挨拶

- 1 関谷会長勲二等瑞宝章叙勲祝賀 記念品贈呈
- 2 MOSSA-Ⅲの善行表彰(艇には善行章、乗組員には表彰状を贈つた)

守谷克己、吉田義明、小泉信一、荒井日出男、鳥飼俊宏

3. レース入賞表彰

神戸横浜交歓ヨットレース 優勝 MOSSA Ⅲ

神子元島レース 優勝 TILDE ②SIRENA ③くろしお

小網代カブレース 優勝 SIRENA ②MOSSA-Ⅲ ③かまくら

4. チタ2世帰国報告

曾我二郎氏

無線電話(電波割当)の交渉経過報告

横山 晃氏

南米諸国(ブラジル、アルゼンチン)のヨットクラブを歴訪して

栗田 潔氏

5. 41年度事業計画(主としてレース)について

(案)

1月		7月	鳥羽パールレース(JOG)
2月	総 会	8月	熱海ランデブー
3月	安全検査	9月	
4月	初島レース(JOG以上)	10月	初島レース(JOG以上)
	南進レース(CLASSIV)		神子元島レース(CLASSIV以上)
5月	大島レース(JOG以上)	11月	小網代カブレース(JOG以上)
6月	初島レース(JOG以上)	12月	懇 親 会

○湾内ポイントレース

- 6 理事、常任委員任期満了に付選衡委員会にて人選総会に提出
- 7 チタⅡ世のスライドを上映した。